

104. 妊産婦および出産後母子両者血中 α -Fetoglobulin の生理的変動

総合太田病院 内科

竹沢 久武 国吉南海夫 下田 新一
滝沢 勝右 森 悦子 田畑美代子

研究目的：

原発性肝癌の血中に α -Fetoglobulin が認められるということが明らかになって以来、肝癌と α -Fetoglobulin の関係が臨床的に注目されて来た。この α -Fetoglobulin は少なくとも胎児に由来するという事実も良く知られており妊娠月数のすすむにつれ血中 α -Fetoglobulin 値の上昇を見たという報告は数多く見られている。そこで本研究では妊産婦の血中 α -Fetoglobulin の変動を調べると同時に出産後母子両者の血中 α -Fetoglobulin の変化を調べたので報告する。

方法：

妊娠7週目より40週迄の血中 α -Fetoglobulin を測定すると同時に出産後母親の血清を出産直後より7日目まで同一例にて α -Fetoglobulin を測定し、出産児については、臍帯血 α -Fetoglobulin を測定した。また同一症例ではないが乳児の血中 α -Fetoglobulin を、出産後4日

目より2年後迄のものについて測定した。 α -Fetoglobulin は Radioimmunoassay にて測定した。

成果：

妊娠10週以前では $10\text{m}\mu\text{g/ml}$ 以下の低い値を示したが、12週以後次第に上昇し、20週以後 $300\text{m}\mu\text{g/ml}$ 以上の高い値を示すものが多く認められ、以後40週迄 $200\sim 500\text{m}\mu\text{g/ml}$ と高い値を示した。出産直後の血中 α -Fetoglobulin の母体の値は 出産直前の値と殆んど同じであったが、出産6時間以内に母体血中 α -Fetoglobulin は急速に低下し、出産直後値の約 $\frac{1}{2}$ となっていた。しかしながら、出産後7日目でも母体では $30\sim 60\text{m}\mu\text{g/ml}$ と高い値を示していた。出産子臍帯血の α -Fetoglobulin は $40000\sim 240000\text{m}\mu\text{g/ml}$ と非常に高値を示し、3ヶ月後でも明らかに $30\text{m}\mu\text{g/ml}$ と高い値を示したが1年後では $5\text{m}\mu\text{g/ml}$ あるいはそれ以下の低い値を示した。閉塞性黄疸の1乳児では生後4ヶ月でも $320\text{m}\mu\text{g/ml}$ 以上の高い値を示していた。

結論：

α -Fetoglobulin は妊娠12週以上の妊産婦に認められ妊娠月数が進むにつれ上昇する。出産後母体血中 α -Fetoglobulin は1ヶ月以内に消失するが、乳児では出産3ヶ月目でも明らかに高い値を示した。